

富山県インド経済訪問団の派遣結果について

1 日 程 2024 年 12 月 19 日(木)から 24 日(火)

2 参加者 29 名 ※別紙のとおり

3 成果と今後の取組み

経済成長が著しいインドとの交流促進のため、既進出企業の視察やインド企業との交流セミナーのほか、教育関係者、政府機関等との交流、観光 PR などを実施した。

具体的な成果としては、

① 富山県からの企業進出・取引拡大への後押し

- ・現地企業のニーズや先行進出事例の取組みを確認できたほか、ビジネスにおいて人とのつながりを大切にするインド企業と対面での交流
- ・県では、訪問企業のフォローを実施するとともに、ジェトロ富山内に、インド進出や取引拡大を目指す企業からの相談対応や情報収集等を行う「富山県インド経済デスク（仮称）」の設置を検討

② 経済分野の交流推進

- ・インド商工省投資促進局、タミル・ナドゥ州工業省のトップとの直接対話により今後の企業進出や人材確保への支援、県との交流推進について確認
- ・今後の取組みとして、天皇誕生日祝賀レセプションでのブース出展、ものづくり総合見本市への関係者の参加誘致、JETRO チェンナイへの県職員の派遣を検討

③ AP 州との MOU 再締結による交流の深化

- ・2015 年に MOU を締結して以来、人的交流、学術交流などの分野で交流を実施してきた AP 州と再度 MOU を締結
- ・今回新たな項目として、「デジタル分野における人材交流」を追加

④ 人材育成・人材確保

- ・富山県立大学とアンドラ大学との学術交流協定の締結
- ・インドからの高度外国人材の受入れを進めるため、「とやま外国人活用支援デスク」の連携企業に、新たにインド人材に強みを持つ人材紹介会社を追加

⑤ 訪日観光客のさらなる誘客

- ・本県としてインドでの観光説明会は初
- ・インドからのさらなる誘客に向け、本県への旅行商品造成のための具体的な提案や PR を実施

引き続き、経済成長著しいインドとの経済交流、ビジネス交流の拡大に向けた関係を強化し、本県経済の活性化につなげていく。



富山県インド経済訪問団の活動日程

日 程	行 事	場 所 等
12 月 19 日(木)	① 結団式 ・ 富山きときと空港→羽田空港 ・ 羽田空港→インディラ・ガンディー空港 ・ インディラ・ガンディー空港→チェンナイ空港 ・ チェンナイ空港→チェンナイ	羽田空港
12 月 20 日(金)	② JETRO チェンナイ所長からのブリーフィング ③ 在チェンナイ日本国総領事からのブリーフィング、昼食会 ④ タミル・ナドゥ州工業省会談 ⑤ 富山県企業とチェンナイ企業との交流セミナー ⑥ 富山県・チェンナイ情報交換会	ホテル 在チェンナイ日本国総領事館 ホテル 同 上 同 上
12 月 21 日(土)	<知事本団> ・ チェンナイ空港→ヴァイジヤワダ空港 ・ ヴァイジヤワダ空港→AP 州内 ⑦ AP 州政府表敬訪問・MOU 再締結 ⑧ 大学関係者との懇談 ⑨ 昼食懇談会 ⑩ 州内視察 <経済団> ⑪ スリシティ工業団地視察 ⑫ 愛三工業視察 ⑬ 進出日系企業との情報交換会	 APEDB, APIIC head office 同 上 ホテル Undavalli Caves Temple スリシティ工業団地 AISAN AUTO PARTS INDIAPvt. Ltd ホテル
12 月 22 日(日)	<知事本団> ・ ヴァイジヤワダ空港→インディラ・ガンディー空港 ・ インディラ・ガンディー空港→デリー市内 <経済団> ・ チェンナイ空港→インディラ・ガンディー空港 ・ インディラ・ガンディー空港→デリー市内	

	⑭ NURA（富士フィルム）視察 ⑮ 富山県・デリー情報交換会	NURA（グルグラム） ホテル
12月23日（月）	<知事本団> ⑯ 在インド日本国大使館表敬訪問 ⑰ インド商工省投資促進局（DPIIT）表敬 ⑱ 富山県観光説明会 <経済団> ⑲ デンソーものづくり学校視察 ・インディラ・ガンディー空港→羽田空港	在インド日本国大使館 インド商工省投資促進局 ホテル DENSO INDIA
12月24日（火）	・羽田空港→富山空港	

【12月19日（木）】

1 結団式（9:00～9:15）

- （1）場 所 羽田空港第3ターミナル3階 TIAT 待合室「富士」
（2）概 要

- 団長の新田知事から、これまでの富山県とインドとの経済交流の経緯のほか、インドの市場の有望性・可能性などが紹介された。現地では既進出企業の視察やインド企業との交流セミナー・情報交換会、政府機関等との交流等を通じ、両国の経済の絆をより深くするとともに、インドの勢いを富山に取り込みたいとの挨拶があった。



知事挨拶

終日：羽田からチェンナイへ移動

【12月20日（金）】

1 JETRO チェンナイ所長からのブリーフィング（9:00～9:30）

- （1）場 所 ホテル
（2）相手方 白石 薫 JETRO チェンナイ事務所長
（3）概 要

- 白石所長によるインド及びタミル・ナドゥ州の経済情勢に係るブリーフィングでは、インドは今後、日本が成長してきた過程をギュッと縮めて5～10年で日本に追いつくことになるとの発言があった。さらに、インドでは地域により経済水準に大きな格差があること、近年中間層や富裕層が増加していること、今後1～2年の事業展開の方向性について「拡大」と回答した在インド日系企業が8割を超えており、全世界主要国の中でトップであることなどの説明があった。
- 質疑応答では、インドの電力需給の状況についての質問があり、インドでは供給が需要を上回っているが、急に供給が止まるなど、まだまだ品質が安定していないというコメントがあった。また、「日本語を教えている大学はあるか」という質問に対し、「いくつかある。必修科目としている大学もある。アニメの影響などで関心が高い」というコメントがあった。



ブリーフィング

2 在チェンナイ日本国総領事からのブリーフィング、昼食会（11:30～13:00）

- （1）場 所 在チェンナイ日本国総領事館
（2）相手方 高橋 宗生 在チェンナイ日本国総領事 ほか
（3）概 要

- 高橋総領事より、製造業が盛んなタミル・ナドゥ州、2014年よりMOUを結びこれまで交流のあったアンドラプラデシュ州を中心にブリーフィングをいただいた。
- その後、別室にて領事館職員も交え、意見交換を兼ねた昼食会が開かれた。



ブリーフィング



昼食会

3 タミル・ナドゥ州工業省 会談 (14:30~15:30)

- (1) 場 所 ホテル
- (2) 相手方 T.R.B. ラジャ タミル・ナドゥ州工業大臣 ほか
- (3) 概 要
 - ・ ラジャ大臣から「タミル・ナドゥ州はインド内で経済力は2位、日本からの投資も多い。富山県はエレクトロニクス、ライフサイエンス、機械分野などが盛んと理解している。タミル・ナドゥ州は人材が豊富で、毎年15万人の優秀なエンジニア人材が卒業している。医師も多い。富山県と研究を一緒にできればと思う」などの発言があった。
 - ・ 新田知事から「富山県の紹介をするとともに、富山県はジェトロ内に富山県インド経済デスクを置きたいと思っている。そのために、職員を再来年にチェンナイに派遣したい。こうすることによって、県とタミル・ナドゥ州の交流が持続可能なものとなる」などの発言があった。



会談



記念写真

4 富山県企業とチェンナイ企業との交流セミナー (15:30~17:45)

- (1) 場 所 ホテル
- (2) 概 要
 - ① 挨拶 (新田知事、ラジャ工業大臣)
 - ② 富山県紹介プレゼン (小野立地通商課長)
 - ③ 富山県企業プレゼン
 - (株)石橋、キタムラ機械(株)、(株)スギノマシン、立山マシン(株)、(株)北陸精機
 - ④ Confederation of India Industry (CII) プレゼン
- ・ 交流セミナーには、当初20名ほどの参加を想定していたが、当日は現地の製造業を中心に46社、55人の参加があった。

- 新田知事とラジャ大臣よりセミナー冒頭に挨拶があった。新田知事から、ものづくりへの理解があるタミル・ナドゥ州との経済交流の拡大は、富山県企業とタミル・ナドゥ州企業の両者にとって、Win-Win の関係を構築できる、などの挨拶があった。ラジャ大臣からは、今回を機会に今後も富山県とのさらなる経済交流促進につなげたいこと、相互に理解を深めたいこと、などについての挨拶があった。
- 次に、小野立地通商課長から富山県の概要や観光地、インド映画、富山県とインドとの関わりなどについてプレゼンを行った。その後、訪問団参加県内企業5社（㈱石橋、キタムラ機械㈱、㈱スギノマシン、立山マシン㈱、㈱北陸精機）から各企業の紹介、インド企業とどのようなビジネスをしたいのかについてのプレゼンがあった。そして最後に、インド最大級の経済団体である Confederation of India Industry (CII) から団体の紹介、日本企業への期待などについてのプレゼンがあった。



企業プレゼン

5 富山県・チェンナイ情報交換会（18:00～19:30）

（1）場 所 ホテル

（2）概 要

- 新田知事から、①富山県は日本海側屈指の工業集積地であり、今回の訪問団では世界をリードし優れた技術を有する県内企業に参加いただいていること、②ラジャ大臣と産業交流について多くの意見交換を行ったほか、交流セミナーを聴講し、今後の企業交流の拡大に大きな可能性を感じたこと、③本日の機会を活かして、チェンナイ企業の方には富山県と県内参加企業への理解を深めていただき、今後の経済交流の拡大につなげていただきたいことについて、挨拶があった。
- 県内企業5社は、各ブースに分かれて、現地企業と商談を行った。その他の参加者は、食事をとりながら意見交換した。
- 現地参加者には、富山県の観光パンフレットや企業立地ガイド、お土産として五箇山和紙で作られたカードボックスを配り、富山県のPRをした。



情報交換会

【12月21日（土）知事本団】

1 AP 州政府表敬訪問・MOU 再締結（10:00～11:00）

（1）場 所 AP 州政府オフィス

（2）相手方 N. ユヴァラジ AP 州商工業・食品加工省長官 ほか

（3）概 要

- 2015 年に AP 州との間で締結した MOU を再締結し、① 経済交流、② 文化交流、③ 人的及び学術交流、④ 医薬品分野に関する交流に加え、双方で関心の高い交流分野として⑤ デジタル分野での人的交流も新たに追加した。
- N. ユヴァラジ長官から MOU を再締結し、富山の強みを理解し、永続する関係を望んでいる。経済、文化、医薬品の分野で交流を続けたい、などの発言があった。
- 富山県知事から「富山県と AP 州は 2015 年に MOU を締結以来、互いの地域の訪問や CIR の配置、学生交流などを進めてきた。今後もこれらの交流を推進するとともに、リクエストに前向きに取り組みたい」などの発言があった。



懇談の様子



MOU 署名後

2 大学関係者との懇談（11:00～12:00）

（1）場 所 AP 州政府オフィス

（2）相手方 AP 州大学関係者 ほか

（3）概 要

- AP 州大学関係者及び山本県立大学理事長から、それぞれの大学の研究分野等を説明いただき、今後の両県州の学術分野における交流の方向性を確認した。
- アンドラ大学に県立大学学長の親書を手交し、協定締結に向けた協議の促進を確認した。



懇談の様子



下山県立大学長名親書を
アンドラ大学へお渡し

3 昼食懇談会（13:45～15:15）

（1）場 所 ハイアットプレイス ヴィジャヤワダ

（2）参加者 N. ユヴァラジ AP 州商工業・食品加工省長官 ほか

（3）概 要

- 新田知事から、MOU には学術交流についても盛り込まれており、これまでの交流をベースに、大学間交流や留学生受入れなどに取り組んでいけることを嬉しく思うとの開会挨拶があった。
- その後、AP 州政府・大学関係者等と、意見交換を兼ねた昼食会が開かれた。
- N. ユヴァラジ長官から「両県州の交流は新たな段階に入った。今後より一層両県州民が交流できればと期待している」との発言があった。
- 山本県立大学理事長から「アンドラ大学との協定を早急に締結し、幅広い分野での共同研究や留学生の相互派遣を推進していくことで、両大学の発展はもとより、両県州の交流の深化の一翼を担っていきたい」との閉会挨拶があった。



知事挨拶時



会場全体

【12 月 21 日（土）経済団】

1 スリシティ工業団地視察（10:30～13:30）

（1）場 所 スリシティ工業団地 アドミニストレーションオフィス

（2）相手方 Dr. Ravindra Sannareddy

Sri City Pvt.Ltd Founder Managing Director ほか

（3）概 要

- 記念写真にあるようにスリシティ工業団地より熱烈的な歓迎を受けた。冒頭、スリシティ工業団地を運営している Sri City Pvt.Ltd から、ジオラマを使って工業団地全体の説明を受けた後、会議室に移動し、パワポ資料にて工業団地の詳細の説明を受けた。
- Dr. Ravindra Sannareddy Founder Managing Director からは、スリシティ工業団地は、AP 州内で最大級の工業団地であること、世界中から投資先として注目され、現在 30 カ国 220 社が入居しており、そのうち日系企業は 24 社（ダイキン、ユニチャーム、いすゞ、エーザイ、東レ、コベルコなど）であること、今後は、住宅や商業施設、病院、教育施設などの充実を図り、住みやすい地域にする予定であることが説明された。

- 説明終了後、バスにて工業団地内を視察したのち、意見交換も兼ねた昼食会があった。



工業団地の説明



記念写真

2 愛三工業視察 (14:00~15:30)

(1) 場 所 AISAN AUTO PARTS INDIAPvt.Ltd.

(2) 相手方 坂上 康則 AISAN INDUSTRY INDIAPvt.Ltd. Managing Director ほか

(3) 概 要

- 記念写真にあるように玄関前に装飾をしていただくなど熱烈的な歓迎を受けた。まず会議室にて愛三工業の会社概要や工場の運営方法などの説明を受けた。
- 坂上 Managing Director から、愛三工業は燃料供給系専門メーカーとして発展し、二輪専用燃料噴射システムを開発したり、ポンプモジュールを制作したりしていること、インドには3つの拠点があり、このスリシティ工場には日本人が3名で従業員全体では550名いることの説明を受けた。また、インド人は給料がいい方がいい方へと転職する、転職するのは当たり前で給与を上げるための人生設計の一つであるなど、インド人の仕事観についての説明を受けた。なるべく辞めさせないためには、会社の魅力を賃金だけにしないことが重要であるとの発言があった。
- その後、3グループに分かれて工場を視察した。



工場内視察



記念写真

3 進出日系企業との情報交換会（18:00～19:30）

（1）場 所 ホテル

（2）相手方 斉藤 道康 チェンナイ日本商工会会長 ほか、チェンナイ日本商工会会員

（3）概 要

- ・ 麦野経済団団長から、本日参加いただいているチェンナイ日本商工会の皆様には、これまで多くのご苦勞を重ねながら、成長著しいインドで長く活躍され、企業経営や日本とインドとの交流拡大に努められたことに敬意を表する、この機会にインドの経済・社会の実情について幅広く意見を伺い、今後の経済交流やインド進出を検討していく上での有意義な情報やアドバイスを頂戴したいという挨拶があった。
- ・ 斉藤チェンナイ日本商工会会長から、チェンナイによろこそおいでいただいた、富山県企業の皆様と意見交換をし、今後の日本とインドとの経済交流の促進につながるような有意義な会にしたいという挨拶があった。



情報交換会



記念写真

【12月22日（日）】

午前中：チェンナイ及びAP州からデリーへ移動

1 NURA（富士フィルム）視察（知事本団 14:00～ 経済団 15:00～）

（1）場 所 NURA（グルグラム）

（2）相手方 和田 耕児 富士フィルム Managing Director ほか

（3）概 要

- ・ フライト時間の関係で、知事本団と経済団の2グループに分かれて視察を行った。
- ・ まず会議室にて富士フィルムの会社概要などの説明を受けた後、健診センター（NURA）を視察した。
- ・ 和田 Managing Director から、インドでは4か所（デリー、ムンバイ、ベンガルール、ハイデラバード）運営していること、内装はホテルの様なコンセプトにしており、おもてなしを重視していること、検診の結果は2時間後に分かる、費用は4万円弱で所得が中級より上の方に利用いただいているとの説明があった。
- ・ 質疑応答では、インドのパートナーと組んだ決め手は何かという質問があり、インドでパートナーを組む時は、相手の人柄が大事であるという回答があった。



NURA の説明



施設視察

3 富山県・デリー情報交換会（19:00～20:30）

（1）場 所 ホテル

（2）相手方 荒谷 礼右 YKK インド社 Managing Director

杉野 健治 インド日本商工会事務局長

ほか、デリー在住日系企業・団体、インド商工会議所連盟の方

（3）概 要

- 新田知事から、本日お越しいただいた皆様は、多くの苦労を重ねながら、インドで長く活躍され、企業経営や日本とインドとの交流拡大に努めてきており、あらためて敬意を表したいことと、人・情報が多く集まるこのデリーで、インドの経済・社会の実情について貴重なご意見をいただくとともに、富山の魅力を多く知っていただき、今後の富山県とインドとの交流拡大につなげていく良い機会となれば幸いであるとの挨拶があった。
- 荒谷社長から「YKK は来年インドに来て 30 年目となる。ビジネスの半分はインド国内向けで、インドは 14 億人を抱えており成長期にあり、輸出も増えている。欧米ブランドが国外展開を増やしており、今回を機に日本とのビジネス交流が深まり共に成長したい」との挨拶があった。



情報交換会



記念写真

【12月23日（月）知事本団】

1 在インド日本国大使館表敬訪問（9:45～10:15）

（1）場 所 在インド日本国大使館

（2）相手方 小野 啓一 在インド日本国特命全権大使 ほか

（3）概 要

- 小野大使から、近年はコロナで地方間交流も難しい時期を迎え、往来が途絶え気味であったが、今回富山県が来て AP 州と覚書をしたことは心強いし、政府としてもありがたいこと、富山県と AP 州が交流を進めていくなかで、お役に立つことがあれば何なりとお声掛け頂きたいこと、富山県はものづくり・製造業で有名なところ、既に富山県企業もインドに進出されているが、大使館としても力を入れてビジネス戦略を立てているので、協力させていただきたいなどの挨拶があった。
- 新田知事から、富山県は 2015 年に AP 州と MOU を締結し、これまで経済・人的・学術交流など様々な分野において友好を深めてきた。そして今回の訪問では AP 州と MOU を再締結でき、経済分野での交流をさらに発展していきたいこと、県としてはインドとのビジネス展開の拡大、インドからの優秀な人材の確保、インバウンド誘致など多方面での交流を促進していきたいことなどの挨拶があった。
- その後、様々な分野について意見交換を行った。



表敬訪問



記念写真

2 インド商工省投資促進局（DPIIT）表敬（10:45～11:15）

（1）場 所 インド商工省投資促進局

（2）相手方 Amardeep Singh Bhatia DPIIT 長官 ほか

（3）概 要

- Bhatia 長官から「今後、将来に向けても日本企業から多くの投資を期待している。現在、海外からインドへの投資額では日本は 5 位で 43 億ドルであるが、近い将来、ますます増えていくことを期待している。自動車産業では、スズキがインドに進出して長いが、成功事例といえる。自動車製造に対する強いエコシステムを創りたいと考えており、日本企業、インド企業双方にとって WINWIN の関係になると考えている」との挨拶があった。
- 新田知事から「インドの経済成長を、「メイク・イン・インディア」として、日本をはじめ外国投資の受入れや雇用促進などにより国内での製造業振興に努めてこられた工業省の役割やその功績に心から敬意を表する。富山県では来年 10 月に「富山県ものづくり総合見本市 2025」を開催する。ぜひ貴省に参加を検討

いただきたい。また、既に拠点を置いている本県企業に対し引き続きご支援いただくとともに、今後インドに進出や取引拡大を考えている本県企業に対しても格別のご配慮、ご支援をいただきたい」との挨拶があった。



表敬訪問



記念品贈呈

3 富山県観光説明会（12:00～14:00）

（1）場 所 ホテル

（2）相手方 文野 領 JNTO デリー事務所長

ほか、現地旅行会社・メディアなど 33 社 50 名

（3）概 要

- 文野所長から、インドからの訪日外客は今年初めて 20 万人を超え、過去最高を記録したこと、現在は、東京・京都・大阪・広島を結ぶゴールデン・ルートが人気であるが、今回の説明会を機に富山をコースに盛り込むことで、インドの方に新たな日本の魅力に触れていただきたい、などの挨拶があった。
- 観光説明会要旨（※インドでは初の開催）
＜①富山県②立山黒部貫光㈱③黒部峡谷鉄道㈱④全日本空輸㈱の順で説明＞
- 現地旅行会社・メディア 33 社に対し、世界的な山岳景観を誇る立山連峰から美しい富山湾までの変化に飛んだ自然、世界遺産や豊かな食、歴史文化、伝統工芸などの多彩な観光資源にあわせ、デリーから日本へのアクセス、富山を含む広域周遊ルートの魅力について説明した。
- 参加した旅行会社からは、「こんなに素晴らしいところを早く知りたかった」「モデルコースを参考に富山を含む旅行商品の造成に取り組みたい」といった、提案した観光コンテンツへの具体的な興味が示された。
- 新田知事から「インドから多くの皆様に富山県へお越しいただきたい思いから、富山の魅力を深く知っていただくため、観光説明会を開催した。富山は標高 3,000m 級の山々から水深 1,000m の富山湾まで高低差 4,000m の自然や豊かな食、文化が魅力。加えて「立山黒部アルペンルート」「黒部峡谷」など本県ならではの観光資源をアピールしたい。今後の富山への旅行商品の造成に役立てていただくとともに、是非、実際にご来県いただきたい」との挨拶があった。
- 全員で集合写真撮影後、ランチ意見交換会を実施した。



知事挨拶



記念撮影

【12月23日（月）経済団】

1 デンソーものづくり学校視察（10:00～12:30）

（1）場 所 DENSO INDIA

（2）相手方 森田 浩充 DENSO INDIA Managing Director

手島 英慈 AOTS ニューデリーオフィス所長 ほか

（3）概 要

① AOTS 説明

② デンソー会社紹介、デンソーJIM 取組紹介

③ 工場見学（2グループに分かれて）

④ Q&A、昼食、記念品贈呈、記念撮影

- 手島所長から「AOTS のインドにおける活動の基本方針は次の3本柱。①現地日本企業とのインド人材育成のための国庫補助金プログラム。②JIM（日本式ものづくり学校）。③政府間協力整備事業である。インドに進出した際のインド人材の育成の制度として、インド人を日本に招聘してインドに帰す、技術研修（3ヵ月～1年）（リーダーになるような人間が対象）と日本人を海外に研修させるものがある」などの説明を受けた。
- 森田社長から「デンソーはインド進出の際、最初は合弁を組み、その後は独資でやっている。日本人は以前20名ほどいたが、現在7名。全体で2,000人。部門長は全員インド人で7割は一時的な雇用者である。デンソーではものづくり学校に2年間で150人を受け入れている。週一回座学で、週4現場で働いてもらっている。インドの学校ではしつけを教わることはなく、学問しか教わらない。そのため、まずはしつけから教えることをしている」との説明を受けた。
- 説明会后、2グループに分かれて工場内を視察した。その後、昼食会を兼ねた意見交換が行われた。



施設見学



記念撮影

富山県インド経済訪問団名簿

(敬称略)

団 長	新田 八朗	富山知事
顧 問	渡辺 守人	富山県議会議長
経済団団長	麦野 英順	富山経済同友会 代表幹事 株式会社北陸銀行 特別顧問
団 員	蒲地 誠	富山インド協会 会長 株式会社北日本新聞社 代表取締役社長
	能作 克治	高岡商工会議所 副会頭 株式会社能作 代表取締役会長
	石橋 隆二	株式会社石橋 代表取締役
	中谷 幸雄	キタムラ機械株式会社 本社営業課係長
	鈴木 哲哉	SUGINO MACHINE INDIA 取締役社長
	松崎 英治	立山マシン株式会社 SFA 事業部 営業技術
	相川 裕亮	株式会社北陸銀行シンガポール駐在員事務所 所長
	谷口 貞夫	株式会社北陸精機 代表取締役会長
	尾山 謙二郎	富山県議会議員
	山本 修	公立大学法人富山県立大学 理事長
	吉澤 泰樹	公立大学法人富山県立大学 学術振興課課長
	荒井 公浩	学校法人荒井学園 理事長
	鎌田 慶昭	公益財団法人富山県新世紀産業機構 アジア経済交流センター長
	村上 久	ジェトロ富山 所長
	原 大智	ジェトロ富山 係長
報 道	楠 浩介	北日本新聞社 政経部長
	坂元 孝太郎	富山新聞社 記者
秘書長	山室 芳剛	富山県商工労働部長
随 員	小野 勉	富山県商工労働部立地通商課長
	村田 英久	富山県商工労働部立地通商課課長 (物流通商担当)
	蛇見 拓斗	富山県商工労働部立地通商課主事
	本郷 優子	富山県生活環境文化部国際課長
	土部 愛	富山県生活環境文化部国際課係長
	宮崎 一郎	富山県地方創生局理事
	加藤 友晴	富山県地方創生局観光振興室国際観光課長
	高岸 裕太	富山県経営管理部秘書課主任